

1日 金曜

詩篇

<42> 第二巻指揮者のために。コラ人のマスキル。

42:1 鹿が谷川の流れを慕いあえぐように神よ私のたましいはあなたを慕いあえぎます。
42:2 私のたましいは神を生ける神を求めて湧いています。いつになれば私は行って神の御前に出られるのでしょうか。

42:3 昼も夜も私の涙が私の食べ物でした。「おまえの神はどこにいるのか」と人が絶えず私に言う間。

42:4 私は自分のうちで思い起こし私のたましいを注ぎ出しています。私が祭りを祝う群衆とともに喜びと感謝の声をあげてあの群れと一緒に神の家へとゆっくり歩んで行ったことなどを。

42:5 わがたましいよなぜおまえはうなだれているのか。私のうちで思い乱れているのか。神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。御顔の救いを。

42:6 私の神よ私のたましいは私のうちでうなだれています。それゆえ私はヨルダンとヘルモンの地からまたミツアルの山からあなたを思い起こします。

42:7 あなたの大潮のとどろきに淵が淵を呼び起こしあなたの波あなたの大波はみな私の上を越えて行きました。

42:8 昼には【主】が恵みを下さり夜には主の歌が私とともにあります。私のいのちなる神への祈りが。

42:9 私はわが巖なる神に申し上げます。「なぜあなたは私をお忘れになったのですか。なぜ私は敵の虐げに嘆いて歩き回るので



か。」

42:10 私に敵対する者たちは私の骨を砕くほどに私をそしり絶えず私に言っています。

「おまえの神はどこにいるのか」と。

42:11 わがたましいよなぜおまえはうなだれているのか。なぜ私のうちで思い乱れているのか。神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。私の救い私の神を。

これは捕囚の地で、かつての都エルサレムを慕って歌われたものです。「鹿が...慕いあえぐ」とありますが、これは信仰の姿を表しています。私たちはあえぐようなことを望んではいませんが、誰にでもそういう時があります。そのような苦しいときや悲しいときに、何を求めるかが大切です。主を求めて慕いあえぐ者でありましょう。それこそが本当の解決です。

サタンは周囲のノンクリスチャンを用いて、「おまえに神はどこにいるか」と、信仰に疑いを起こすようにしむけますが、それはサタンの常套手段であって、惑わされないようにしましょう。むしろ「喜びと感謝」のときを「思い起こし」しましょう。そして「神を待ち望み」みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

